

共創の場形成支援プログラム【共創分野】

拠点名称：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点



代表機関	慶應義塾大学	プロジェクトリーダー	中村 雅也 慶應義塾大学 医学部 教授
参画機関	東京科学大学、理化学研究所 株式会社電通総研、i2medical 合同会社、アサヒ飲料株式会社、味の素株式会社、株式会社グレースイメージング、JSR 株式会社、FrontAct株式会社、株式会社デジタルガレージ、株式会社電通、株式会社電通サイエンスジャム、日本電信電話株式会社、株式会社ヘルスケアリレイションズ、三井住友海上火災保険株式会社、三井不動産株式会社、ミネベアミツミ株式会社、一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）、ライフログテクノロジー株式会社、MS&ADインターリスク総研株式会社、東京都、神奈川県、川崎市、豊島区		

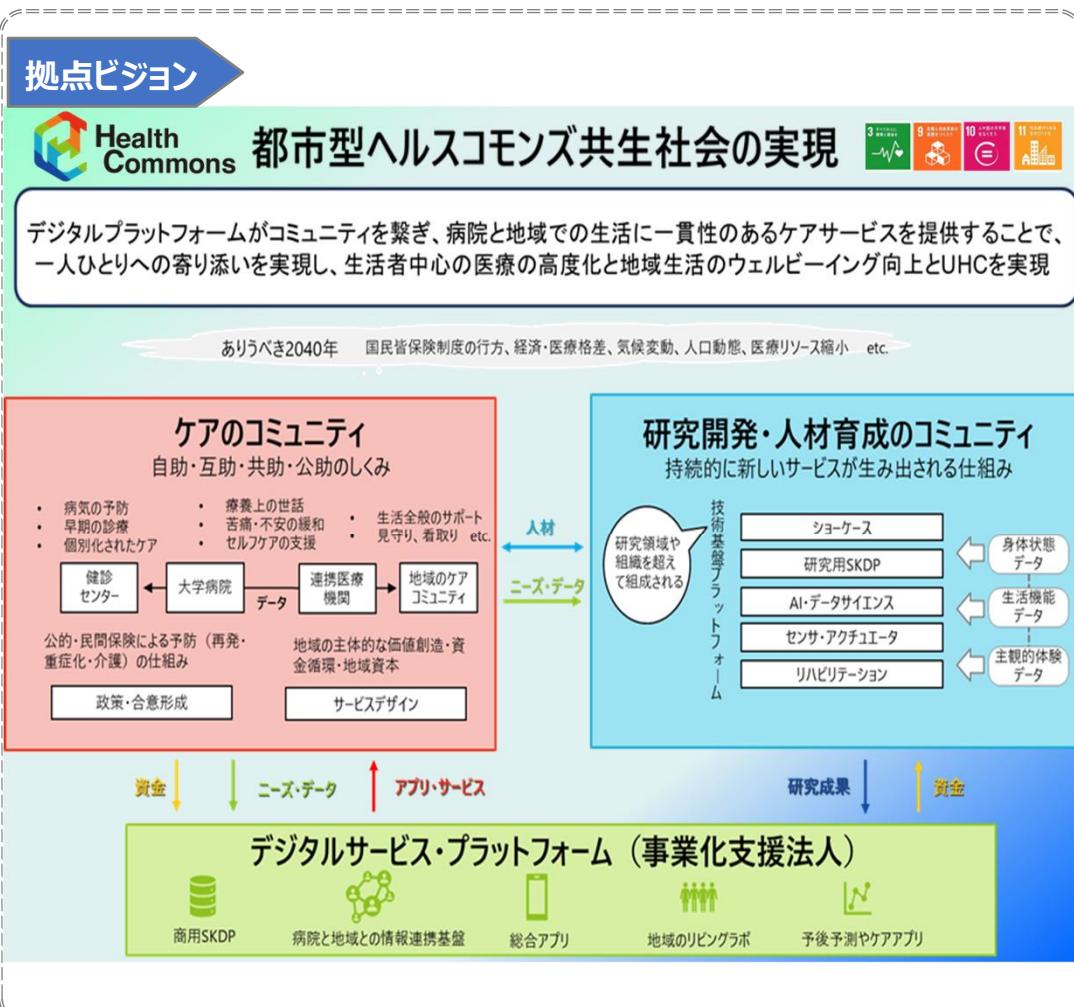
プロジェクトの概要

私たちは、「誰もがつながり、安心して暮らせる健康な社会」の実現を目指しています。

医療・介護・ヘルスケアの情報をつなげることで、必要なサービスにスムーズにアクセスできる仕組みをつくり、病気の悪化や介護離職を防ぎます。また、孤立しがちな高齢者や若い介護者の支援、健康不安による貧困の連鎖の解消にも取り組みます。

そのために、大学や研究機関、地域が連携し、多様な人々が協力する仕組みを整備し、研究や人材育成、医療現場への実装を進め、新たな医療・サービス・ビジネスを生み出す土台を築きます。

都市での共生とウェルビーイングの実現に向けて、一步ずつ取り組んでいきます。



■ SDGs

SDG3

SDG9

SDG10

SDG11

拠点名：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点

プロジェクト外の要素(社会動向等)

ビジョン：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点

プロジェクト外の取り組み等

「プロジェクト」の活動範囲

■ ターゲット

1. ウェルビーイングな生活環境と社会システムデザインの構築

2. ウェルビーイングを共創する技術基盤プラットフォームの構築

3. ひとり一人に寄り添う医療・介護・ヘルスケアサービスの実現

■ ユニットと研究開発課題

ひとり一人に寄り添う社会システムづくり
 ■政策・合意形成ユニット
 ■サービスデザインユニット

後病を支える技術基盤ユニット 整備・運営
 ■データサイエンス・AI技術基盤ユニット
 ■センサ・アクチュエータ技術基盤ユニット
 ■リハビリテーション技術基盤ユニット
 ■研究用SKDP技術基盤ユニット

うつ病になっても日々生き生き「寄り添う」研究

認知症になっても日々生き生き「寄り添う」研究

脳卒中になっても日々生き生き「寄り添う」研究

心不全になっても日々生き生き「寄り添う」研究

腎不全になっても日々生き生き「寄り添う」研究

3

4

5

6

7

PL推進課題

■デジタルケアノート
 ■肝がん運動療法
 ■見守りレーダーシステム
 ■ピークフローメーター

■WEB面接フォローアップ
 ■マイクロハピネス
 ■食領域
 ■歩行解析システム

拠点名称：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ“共創拠点”
代表機関：慶應義塾大学
プロジェクトリーダー：中村 雅也（慶應義塾大学 医学部 整形外科学教授/副医学部長）

研究開発課題3「うつ病になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		年度
中間目標6	データ収集・中間解析	2023
中間目標7	上記のスケールアップ	2025-2026
中間目標8	予測アルゴリズムの精度アップ	2026
PoC達成目標5	事業プロトタイプの検証	2027
最終目標4	事業の社会実装	2030
研究開発課題4「認知症になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		年度
中間目標9	データ収集・中間解析	2023
中間目標10	上記のスケールアップ	2025-2026
中間目標11	複数企業との連携体制構築	2026
PoC達成目標6	事業プロトタイプの検証	2027
最終目標5	事業の社会実装	2030
研究開発課題5「脳卒中になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		年度
中間目標12	データ収集・中間解析	2022
中間目標13	エビデンスの構築	2024
PoC達成目標7	予測アルゴリズムの開発・実証	2027
最終目標6	事業の社会実装	2030
研究開発課題6「心不全になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		年度
中間目標14	データ基盤の構築	2023
最終目標7-1	データ基盤の活用	2025
中間目標15	データ収集・中間解析	2026
PoC達成目標8	事業プロトタイプの検証	2027
中間目標16	生活支援ツールの開発	2029
最終目標7-2	データ基盤の活用と運動支援ツールの開発	2030
研究開発課題8「腎不全になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標（2025～）		年度
中間目標18	予測アルゴリズムの開発	2027
PoC達成目標9	予測アルゴリズムの実証	2027
中間目標19	事業プロトタイプの検証	2028
最終目標8	事業の社会実装	2030

拠点名称：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ“共創拠点
代表機関：慶應義塾大学
プロジェクトリーダー：中村 雅也（慶應義塾大学 医学部 整形外科学教授/副医学部長）

